

世界最高峰のメトロポリタン・オペラを大スクリーンで体感！
METライブビューイング 2025-26《アンドレア・シェニエ》
オペラ界の若き巨匠 ダニエレ・ルスティオーニ氏
来日インタビュー オフィシャル・リリース

平素より大変お世話になっております。

ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場(MET)の世界最高峰の最新オペラ公演を大スクリーンで楽しむ MET ライブビューイング。今シーズン第4作目となるジョルダノー《アンドレア・シェニエ》が3月6日(金)～12日(木)まで1週間限定で全国公開となります。(※東劇のみ3/19(木)までの2週上映)

フランス革命を舞台に実在の詩人と伯爵令嬢の悲恋を、世界的スター歌手&オペラ界の若き巨匠で贈る壮大な歴史ドラマがMETライブビューイングに初登場！



インタビューを受けるダニエレ・ルスティオーニ氏

そしてこの度、《アンドレア・シェニエ》の公開を記念して、東京都交響楽団の演奏会で来日中のダニエレ・ルスティオーニ氏の取材を行いました！

ダニエレ・ルスティオーニ氏は、作曲家の意図を精緻に紐解き、その核心を鮮烈に描き出す名手として、世界の主要舞台を席卷する若き巨匠。2025-26シーズンから MET 首席客演指揮者に就任し、今年4月には東京都交響楽団首席客演指揮者にも就任予定の今もっとも聴衆を熱狂させるマエストロの一人。指揮を務めて感じたジョルダノーの音楽や出演歌手陣の魅力、さらには MET 首席客演指揮者としての意気込みなどたっぷりお話しして頂きました！ぜひご紹介賜りますよう、お願い申し上げます。

【《アンドレア・シェニエ》指揮者 ダニエレ・ルスティオーニ 来日インタビュー】

インタビュー/オペラ評論家 香原斗志

“歌手とオーケストラを音楽的に交流させ、最高の効果を引き出しました”



MET ライブビューイングで3月6日(金)より公開される《アンドレア・シェニエ》を指揮したダニエレ・ルスティオーニ。生命力あふれる磨き抜かれた音楽で、八面六臂の活躍を続けるミラノ生まれの俊英指揮者は、世界中で共演者との分厚い信頼関係があり、英国ロイヤルオペラの次期音楽監督候補にも、最後まで名前があった。結果として、MET・LVのファンには幸いなことに、2025/2026 シーズンから MET の首席客演指揮者に就任し(2026年4月には東京都交響楽団の首席客演指揮者にも就任する)、早速指揮したオペラを、間もなく映画館で楽しめる。

それに先立ち、都響の招聘で来日したルスティオーニにインタビューした。期待が高まらずにはいられない内容だった。

——オペラ《アンドレア・シェニエ》の特徴と魅力を教えてください。

ヴェリズモ(真実主義)・オペラですが、《カヴァレリア・ルスティカーナ》や《道化師》のような、南イタリアの庶民の生活を描く伝統的なヴェリズモとは違って、歴史ドラマです。しかし、言葉へのアクセントへの付け方や、アリアも会話のテンポで進行するところなどがヴェリズモ的です。つまり、言葉や動作と音楽が一体になって流れていくのが、とてもアリストティックです。

第 1 幕はとても貴族的で、ある意味、表面的な世界です。それが第 2 幕で大きく変化します。フランス革命後の世界

が描かれ、オーケストレーションが拡大され、恐怖政治への熱狂や、それに巻き込まれた人たちの感情の渦が、音楽に反映されることになります。つまり音楽が、陰謀や恐怖をはじめ舞台上に見えるできごとと重なるのです。

その点で、この MET の《アンドレア・シェニエ》は魅力的です。演出家ニコラ・ジョエルによる伝統的なプロダクションで、音楽で表現されるものを、そのまま舞台上で見ることができます。近年、舞台上で「演出家の創作」を見せられることも多いですが、見るに堪えないと思っています。よい意味での伝統的な舞台で指揮できたのは幸せです。



——あなたが指揮した《アンドレア・シェニエ》は、ほかの指揮者のものとどこがどう違いますか？ また、歌手陣はいかがでしたか？



私はピアノを通してオペラを勉強し、自分でも歌い、そうしてオペラの内側まで知っているので、はっきりした考えがあります。私は伴奏をするのではなく、歌手たちと一緒に音楽を作ります。そのためには、歌手たちは管弦楽に十分に耳を傾け、私も彼らの声をしっかり聴く必要があります。そうやって音楽を進めるためにも、私は演奏を、ほかの指揮者以上にオーケストラにまかせます。とくに弦楽器の音を、広い MET のすみずみまで届かせるためにも、彼らの自主性を尊重します。

今回の《アンドレア・シェニエ》では、ピョートル・ベチャワ、ソニア・ヨンcheヴァ、イーゴル・ゴロヴァテンコという、特別に強い声をもつ 3 人の主役歌手が

そろいました。だからこそ余計に、伴奏をするのではダメ。すぐれた歌手たちと同じレベルで音楽を作りました。つまり、オーケストラでなんらかの感情を表現すべき箇所では、ボーカルラインにそういう指示がなくても、オーケストラと同じ表現をしてもらいます。逆に、歌手が歌にアクセントを加えて効果を出す箇所では、オーケストラにも同様の表現を求めます。このように、歌手とオーケストラの音楽的な交流が起こるように心がけています。

もちろん、劇場のすみずみまで届く声が必要な MET で、彼ら 3 人が歌ってくれたのは大きなよろこびでした。しかも、3 人ともヴェリズモの表現に適していて、最高の効果が得られました。



——2025/2026 シーズンから MET の首席客演指揮者にも就任されました。そこに至った経緯と、今後の抱負について聞かせてください。

実は、2022 年にも打診されたのですが、当時はリヨン歌劇場と音楽監督の契約があったのでお断りしました。しかし、2025 年に娘が生まれ、娘が就学するまでは家族との時間を大事にしたいと、リヨンの仕事を辞しました。そ

うしたら、それを知った MET のオーケストラから手紙がきたのです。オーケストラが私と一緒に仕事をすることを望んで、ピーター・ゲルブ総裁に頼んでくれたのです。これはうれしかったですね。

今後は毎シーズン、ニューヨークに 2 カ月滞在し、3 つのオペラを指揮するほか、時にカーネギーホールでもコンサートを行うことになります。

MET ではこの劇場の3つの側面を体験したいと思います。1つは《ラ・ボエーム》や《魔笛》など頻繁に上演されている演目。1 つは《アンドレア・シェニエ》のように MET ではしばらく上演していなかった演目。もう 1 つは現代作品や世界初演の作品です。それらをカバーすることが、イタリアのレパートリーにかぎらず幅広く経験を積んできた私の役割です。

——MET ライブビューイングを楽しみにしている日本のファンへのメッセージをお願いします。



ジョエルが演出した MET の《アンドレア・シェニエ》は、1997 年にパヴァロッティが歌ったときの VHS 映像を、子どものころ擦り切れるほど観ました。これはまさに MET の歴史の一部で、オペラの黄金時代から届けられたようなすばらしいプロダクション。それをいま、すばらしいオーケストラと合唱、強力な 3 人の主役歌手たちと一緒に、すばらしい技術をともなって圧倒的な存在感でお届けできます。

ライブビューイングは私自身、劇場で観るよりすばらしいと思うことがあります。歌手たちの表情はよく見え、字幕は完璧で、今回は第 1 幕と第 2 幕の間に私がピアノを弾きながら説明するインタビューがあり、その後、歌手たちのインタビューもあります。まさにオペラを 360 度にわたって体験できるすばらしい機会なので、ぜひジョルダノの音楽とともに映画館でお楽しみください。

(取材協力:東京都交響楽団)

舞台写真(c) Karen Almond/Metropolitan Opera

★ダニエレ・ルスティオーニ/Daniele Rustioni プロフィール

作曲家の意図を尊重し、深く解釈された洗練された音楽を躍動させる。今シーズンから MET 首席客演指揮者に就任。1983 年にミラノで生まれ、ミラノ音楽院修了後、ロンドンで G・ノセダや A・パツパーノらの薫陶を受ける。2017 年からリヨン国立歌劇場首席指揮者。主要歌劇場や音楽祭の常連で、26 年には東京都交響 楽団首席客演指揮者にも就任予定。MET デビューは 17 年の《アイダ》。LV21-22《リゴレット》、22-23《ファルスタッフ》、23-24《カルメン》が絶賛された。

**★フランス革命の激動に翻弄される、実在の詩人と伯爵令嬢の悲恋。
世界的スター歌手&オペラ界の若き巨匠が贈る、壮大な歴史ドラマ！**

MET ライブビューイング 2025-26
ジョルダノ 《アンドレア・シェニエ》

3月6日(金)～12日(木) ※東劇のみ3/19(木)まで2週上映

東劇・新宿ピカデリーほか全国公開

指揮：ダニエレ・ルスティオーニ 演出：ニコラ・ジョエル

出演：ピョートル・ベチャワ、ソニア・ヨンチェヴァ、イーゴル・ゴロヴァテンコ ほか